

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
上原成商事本社新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル				NC値(35~45)程度	4.0	0.40	3.0	-
1.2 遮音				遮音性能:T-2 Dr=50	5.0	0.40	-	-
1 開口部遮音性能					5.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能					5.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	-
1.3 吸音				二面に吸音材がある	4.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				冷暖の選択が可能	3.3	0.50	-	-
1 室温					3.0	0.38	3.0	-
2 外皮性能					3.0	0.25	3.0	-
3 ソーン別制御性					4.0	0.38	-	-
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式					1.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				昼光率:1.20%	3.4	0.25	-	-
1 昼光率					2.4	0.30	-	-
2 方位別開口					2.0	0.60	3.0	-
3 昼光利用設備					3.0	0.40	-	-
3.2 グレア対策					3.0	0.30	-	-
1 昼光制御					3.0	1.00	3.0	-
3.3 照度				事務所 700lx	4.0	0.15	3.0	-
3.4 照明制御				1作業単位で照明制御可能	5.0	0.25	3.0	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				全ての内装材(仕上げ・接着剤)はF☆☆☆☆認定品	4.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質					4.0	1.00	3.0	-
4.2 換気				建築基準法を満たす換気量の1.4倍	4.3	0.30	-	-
1 換気量					5.0	0.33	3.0	-
2 自然換気性能					3.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮				給気口と換気口は異なる方位でと6m以上離隔	5.0	0.33	3.0	-
4.3 運用管理					3.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視					-	-	-	-
2 喫煙の制御					3.0	1.00	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	-
1 広さ・収納性					2.3	0.40	-	-
2 高度情報通信設備対応					1.0	0.33	3.0	-
3 バリアフリー計画					3.0	0.33	3.0	-
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0	0.33	3.0	-
2 リフレッシュスペース				執務スペースの1%以上のうえ、自動販売機の設置	5.0	0.33	-	-
3 内装計画					1.0	0.33	-	-
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計				トイレの壁は防汚性が高い材料を使用	4.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保				清掃資材の洗い場の設置	4.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.30	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30	-	-
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				床・壁・天井共に更新期間20年	5.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				主要な用途のうち2種以上にC以上を使用しEは不使用	4.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-

2.4 信頼性					2.8	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.0	0.30			3.0
3.1 空間のゆとり					3.0	0.30			
1	階高のゆとり				3.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0		
3.3 設備の更新性					3.0	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			3.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	自生樹の保全等	4.0	0.30			4.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観地区、風致地区にあり、認定または許可を得ている	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.3
LR1 エネルギー					-	0.40			3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.72	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.80	3.0	0.50			3.0
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
集合住宅の評価					-	-			
4.1	モニタリング				3.0	-			
4.2	運用管理体制				3.0	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.5
1 水資源保護					3.4	0.20			3.4
1.1 節水				節水コマ等に加えて省水型機器などを用いている	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.7	0.60			3.7
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	仕上材料にリサイクル材を3品目使用	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮				LCCO ₂ 排出率削減に配慮	3.5	0.33			3.5
2 地域環境への配慮					3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止				燃焼機器の設置がない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			管理用車両の駐車スペースを確保している	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制			ごみの種類や量の推計を行っている	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					2.7	0.33			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動				-	-			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					1.6	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる